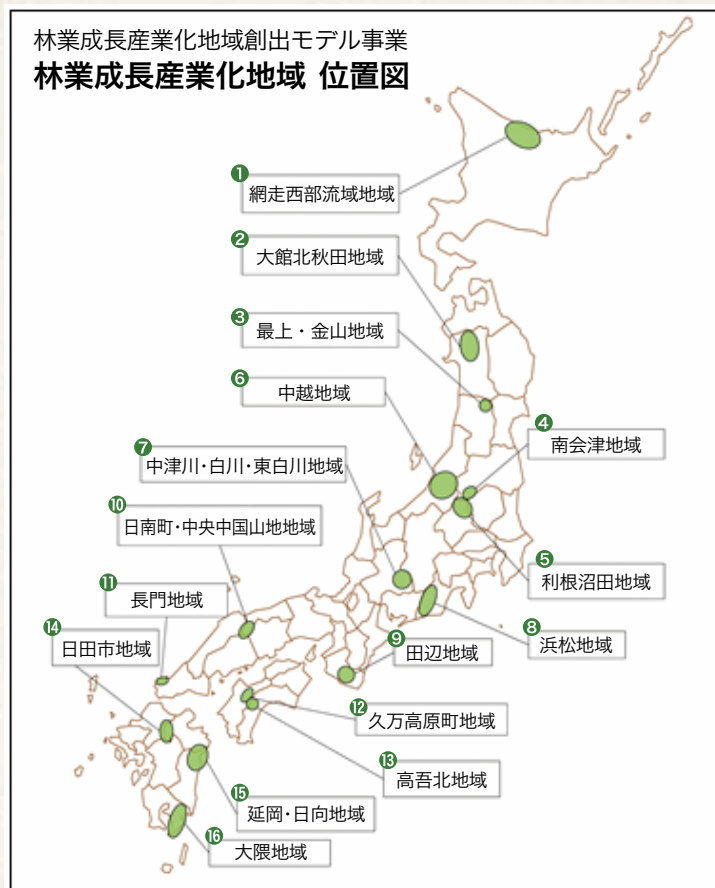


図—1 林業成長産業化地域 位置図



1 「林業成長産業化地域」の選定

平成29年4月28日、林野庁が今年度から実施する「林業成長産業化地域創出モデル事業」の「林業成長産業化地域」に「延岡・日向地域」が選定されました。この事業では、森林資源の利活用を

通して、多くの雇用や経済価値を生み出そうとする地域を「林業成長産業化地域」として選定し、その地域が掲げるビジョンの実現に向け、ソフト面での対策を支援するとともに、ソフト対策と一体的に行う、木材加工流通施設などの施設整備を優先的に採択するなど、重点的な支援が行われるものです。

林業成長産業化地域創出モデル事業①

「延岡・日向地域」(宮崎県)の選定について

平成29年1月から2月にかけて林野庁から公募があったもので、外部有識者による委員会での審査等を踏まえ、応募した全国45地域の中から、宮崎県の「延岡・日向地域」を含む16地域が選定されました(図—1)。

この中から、伐採が増加するなど林業・生産活動が国内で最も活発な地域の一つである延岡市及び日向市の取組を紹介します。

2 延岡市及び日向市の連携による応募

両市では、循環型林業の確立に向けて、再造林の推進や担い手の確保などの課題が急務となっていました。宮崎県では、この公募事業を課題を解決の上でまたとない機会と捉え、平成28年11月から各市町村への事業説明会を開催するなど積極的に情報提供を行ってきました。同年12月に市町村へ意向調査を実施したところ、延岡市と日向市が応募の意向を示したことから調整を行い、両市の連携によって相互の特色を活かした構想がまとめられ、応募に至ったものです。

表—1 地域の林業の目標

項目	現況	H33年度
素材生産量	177,101m ³	200,000m ³
再造林面積	276ha (再造林率 78%)	370ha (再造林率 88%)
林業従事者増加数	— 人	150 人

※素材生産量の現況はH27年の数値。

※再造林面積の現況はH25～27年度の平均数値。

3 「延岡・日向地域」の目指す目標

地域の主な特色としては、延岡市は九州で2番目に森林面積が広く、豊富な森林資源を有するとともに、日向市は中国木材株式会社日向工場や耳川林業地域木材加工団地など数多くの製材工場が立地していることなどが挙げら

図—2 「延岡・日向地域」地域構想概略図



4 取組内容

表—1に示した目標を達成するため、

その一方で、本地域における喫緊の課題は原木需要の高まりを受けて増加する素材生産量に対応した再造林対策及びその担い手の確保であることから、構想の最終年度（平成33年度）の達成目標を以下のとおり定めて、様々な対策を講じることにしています（表—1）。

両市では行政、森林組合、素材生産事業体、製材業者等からなる「資源循環型林業推進協議会」（以下「協議会」）を設立し、参画者の合意形成を図りながら、①再造林の推進、②担い手の確保対策、③森林資源の高付加価値化の推進、④普及啓発の推進などに取り組み、いくこととしています（図—2）。

また、再造林の推進では「伐って、使って、すぐ植える」を実現するため、「伐採造林一貫作業マニュアル」を策定し、伐採者と造林者との連携強化を



写真—1 延岡・日向資源循環型林業推進協議会

5 協議会の始動!!

平成29年7月13日に日向市、19日には延岡市において、それぞれ第1回目となる協議会が開催され、同年8月1日には両市合同の協議会が開催されました（写真—1）。

図るなど、伐採後の適確で速やかな再造林を促進するとともに、森林所有者の経済的な負担軽減などを図る「再造林バンク（仮称）」の設置について検討されることとなっています。

さらに、担い手の確保対策では、再造林など、一時的に多くの労働力を必要とする施業を担う人材を確保する、「人材バンク」の構築に向けての取組が進められることになっています。



写真—2 作業路開設研修会

また、延岡市の協議会では、担い手確保対策として、地域の森林を地域で守る「集落林業」を推進することとしており、同年12月24日に福岡県八女市において作業路開設の研修会を開催しました（写真—2）。

研修会では、橋本林業（徳島県）の橋本光治氏を講師に迎え、「急傾斜での丈夫で崩れない作業路作りと安全なルートの設定方法」と題して、実際に山林を歩いての線形決定や重機による強固な路体構築などを学んだところです。

県としては、両市の林業成長産業化に向けた取組をしっかりとサポートし、その成果を県内各地域に波及させたいと考えています。

（宮崎県山村・木材振興課 みやざきスギ活用推進室 木材産業振興担当）